

## 『令和2年度以降の幌延深地層研究計画(案)に係る確認結果』に係るご意見(抜粋)

令和元年11月8日から11月27日までの期間で実施した『令和2年度以降の幌延深地層研究計画(案)』に係る確認結果』に係る意見募集について、86名、144件のご意見をいただきましたので、その一部を抜粋して掲載します。

たくさんのご意見をお寄せいただき、ありがとうございます。

### 【ご意見】

● いかなる場合においても最終処分場となることは絶対反対です。そうなることのないよう、十分な確認をした上での延長をお願いいたします。

● 放射性廃棄物の処理処分については、我が国における原子力行政の喫緊の課題であると考えます。そのためにも幌延で行われている研究を充分尽く

していただく事が重要だと思えます。

● 幌延町は、二者協定の当事者として、研究を円滑に推進できる環境の提供や、町民・道民が抱く懸念などの払拭に、より一層努めることが重要と考えます。

● 核燃で働いている人々に罪はありません。皆いい人ばかりです。町は人口減をおそれ、延長に賛成かと思いますが、問題は別です。人口を増やすために、もっと、いろいろ考えるべきでしょう。核燃頼みの幌延町では困ります。

● 地層処分は、工事開始から終了まで約100年、ガラス固化体に含まれる放射能の減衰まで100万年。この期間の活断層の変化・地下水の動きを

どのように予測することができのでしょうか。ですから、幌延深地層研究センターにおいての研究には即刻終止符を打ち、埋め戻すべきです。

● 幌延町は国の施策に協力し、それを一つの地域振興策として進めてきたことが、幌延町ばかりではなく、周辺自治体にも交付金が交付されており各地域で活用されていることを考えると決して間違った施策ではなかったと思います。原子力機構には、今後も更なる丁寧な説明と積極的な研究を続けるよう要望します。

● 『令和2年度以降の幌延深地層研究計画(案)』に係る確認結果』において、示された幌延深地層研究センターの必要性、妥当性、二者協定との整合性は、幌延町で研究が継続して行われる事由として充分だと思つ。また、地層処分研究開発は、国に必要なものであり、協

定を遵守し、放射性廃棄物を持ち込まず、これまで通りに研究が幌延町で行われることは、幌延町にとってもプラスであると思う。

● 原子力発電所を止めても出続ける高レベル廃棄物処分の研究は、最終処分地が決まっても続けていかなければなりません。二者協定のもとで町内には核廃棄物を持ち込まない事が明記されており、町民の大多数がこのまま研究を続けてほしいと判断していることを鑑み、10年程度の延長は当然の事と思えます。

● 北海道や幌延町のHPで確認会議の議事録を確認しましたが、いつも見る新聞の記事で見た内容と全くと言っていいほど内容が違つていて驚きました。確認会議の中では、原子力機構から申し入れのあった研究計画案の内容について慎重に審議されたうえで、理論的に幌

延の研究施設が最終処分場に転用されることはないことも確認されていますが、そのことは全く取り上げられていません。憶測や少数意見を誇張し、情報が少ない私たち道民の不安をいたずらに煽り、世論の誘導を目論んでいるのではないかと、とても不安に感じましたし、恐ろしくも感じました。

● 必要性について、細かな説明が町民に対してなされると、より理解が深まるように思つ。成果の得られた研究についても分かりやすい形で公開してほしい。

※皆さんからお寄せいただいたご意見一覧は、幌延町HPに掲載しています。

### 【お問い合わせ先】

企画政策課

企画政策グループ

電話 話：5-1111-14

告知端末機：5-881-4